

学生支援の現場から

◆東海大学  
大学と学生の心をつなぐ試み

曾田 成則  
(東海大学学生生活支援室 室長)

東海大学の在学生約三万人のうち、約二万三千人が湘南キャンパスで学んでいるが、この学生たちのキャンパスライフを支援するため、二〇〇一年一〇月、全国の大学に先駆けて「学生生活支援室」を開設し、五年が経過した。これまでの相談及び利用件数は六万四千件以上となっている(二〇〇七年八月末現在)。

ここで支援室の主な業務を記してみると、①各種相談。②案内。③施設・設備利用。④講座開催(昼休み三〇分を利用し学内の教職員による各種テーマで月二回)。⑤法律相談開催(各種トラブルに対し教員《弁護士》による相談月二回)。⑥情報誌の発行(学内コミュニケーション誌年六回発行)。⑦相談対応事例集「自分探しのロードマップ」(保護者教職員向け年一回発行)。⑧大学近況報告会(新入



大学近況報告会

生保護者を対象とし、各県の後援会に出向き学園の状況及びび学生生活を送るにあたってのアドバイスなど、五月〜七月の土、日を中心に今年は二二県二五ヶ所で行った。⑨学生モニター制度の確立とWebアンケート調査の実施(学生モニター一五〇人を採用し、春・秋学期の年二回アンケート調査に回答した者に図書カード進呈)。

こうした支援室の五年間の学生との対応で見えてきたことは、大学生活の中で、何をしたらいいのか、よく分からないという学生が相当数いるということである。カテゴリーでできないさまざまな問題で相談にくるほとんどの学生が、自分自身を見いだせないままに「自分探し」と「自分の居場所探し」をしているのである。多くの学生が、ただ何となく卒業していくのではなく、人生にヴィジョンを持って、社会に巣立っていきけるように、



クイック講座

支援していくことが大切であり、今後の学生支援の根幹となっていくものと考えている。そのためには従来の「よろず相談窓口」という機能から、さらに次のステップへと進めていくことが必要であり、このことが学生たちの「自分探し」の渴望に、大きく応えていくことになるのではないかと考える。

これらの諸課題を踏まえ、支援室の機能をさらに全学的に拡大し、教育支援、学生生活支援、キャリア支援を連携させ、学生満足度の向上に取り組んでいくことが急務と考え、そのための対応策についていくつか上げてみたい。

一 新入生に対し、ガイダンス時のキャンパス施設見学ツアーの実施

二 第一セメスターにおける「大人になるため」の実践講座開設



支援室内風景

三 学生のコミュニケーション能力、ライフデザイン支援プログラムの開発と提供

四 窓口サービスの向上のための職員プログラム開発と研修実施

以上、学生の成長や自分探しは教職員が一体となって支援していかなければならないが、その窓口としての役割を支援室が担っており、その意味で「大学と学生のこのころをつなぐ開かれた場」として「学生の声」を少しでも反映できるよう、これからも努力していきたい。